

『浮世絵で遊ぼう！ - すごろく、影絵、水族館 - 』



歌川広重
「即興かげぼしつくし つる」

中判錦絵二丁掛の内
天保10～13年(1839～1842)
蔦屋吉蔵版

今回の夏休み企画展覧会では、「戯画」を中心に、幕末から明治にかけて多く出された「おもちゃ絵」や「すごろく」、魚たちを美しく描いた「魚づくし」など、昔の子どもや大人が楽しんだ浮世絵の世界を紹介しています。

「戯画」とは、「ふざけたりおどけたりした姿を描いた絵、または、おもしろおかしく社会を批判することを目的とした絵」のことを言います。風景画で有名な歌川広重も、いくつかの「戯画」を描いています。「たわけた」芸を集めた「狂戯芸づくし」、いろはの言葉遊びを絵にした「浮世風俗戯化いろは」、影絵「即興かげぼしつくし」などなど。これらの作品には、おかしい表情をした人々や、とてもまねできそうもない姿をした人々が出てきます。

展示室内は、すごろく遊びの雰囲気を再現し、楽しんで作品を鑑賞していただけるよう工夫しました。浮世絵を通して、昔の遊びの楽しさを味わっていただけたら幸いです。

この展覧会に限り、小中学生および高校生の皆さんは、観覧無料になります。また8月14日(月)は、イベント「ゆかたで涼む美術館」を開催します。当日は午後8時まで特別開館(入館は7時半まで)とし、市民の皆さんには、無料でご観覧いただけます。

会期: 7月27日(木)～8月31日(木)

毎週月曜日休館。ただし8月14日(月)は特別開館

会期終了後、9月1日(金)～4日(月)まで展示替え休館します。

編集後記

夏の風物詩の一つ「かき氷」。古くは1600年前、天皇へ氷を献上したところ大変喜ばれ、蔵氷・賜氷制度が制定されました。当時の氷はとても高価で、平安貴族の夏のぜいたくな楽しみとされていたのが始まりといわれます。

現在ではこの時期、どこでもかき氷を味わうことができますが、地方によってシロップのかけ方が違うようです。この辺りでは氷の上にシロップをかけますが、千葉ではシロップの上に氷をかけ、宮城ではシロップの上に氷、さらにシロップをかけるなど。「氷とシロップ」シンプルな組み合わせも所変われば味わい方や楽しみ方も多少違う。人の好み、地域の個性の一つのように感じます。

次号は8月15日号

発行日は8月15日(火)です

広報えな No.41

2006年(平成18年)8月1日発行

発行 恵那市役所

編集 まちづくり推進課広報広聴係

岐阜県恵那市長島町正家1丁目1番地1

☎26-2111 / ☎25-6150

<http://www.city.ena.gifu.jp/>

✉info@city.ena.gifu.jp

『広報えな』8月1日号、1部当たりの印刷経費は約12.5円(税込み)です。

『広報えな』は古紙100%の再生紙を使用しています。



この印刷物は石油系インキではなく、地球に優しい大豆油を使用したインキで印刷されています。